

2026年3月期(第28期)決算の概要等について

報道関係各位

 2026(令和8)年6月25日
 株式会社札幌ドーム
 (札幌ドーム指定管理者)

株式会社札幌ドーム（以下当社）は、本日開催の定時株主総会およびその後の臨時取締役会におきまして、以下のとおり2026年3月期（第28期）の決算を報告するとともに、取締役1名が選任され、就任いたしましたのでお知らせいたします。

1. 2026年3月期(第28期)決算概要 ※百万円未満および千人未満切り捨て

○売上高	22億8百万円	(前期比 4億21百万円増)	※前期売上高 17億87百万円
○経常利益	2億85百万円	(前期比 2億42百万円増)	※前期経常利益 43百万円
○当期純利益	1億54百万円	(前期比 1億11百万円増)	※前期純利益 42百万円
○総イベント開催日数	119日	(前期比 10日減)	※前期 129日
○総利用日数	259日	(前期比 2日増)	※前期 257日
○稼働率	71.0%	(前期比 0.6ポイント増)	※前期 70.4%
○イベント来場者数	120万3千人	(前期比 8.2%増)	※前期 111万2千人
○観光来場者・一般市民利用者ほか	10万2千人	(前期比 37.5%増)	※前期 7万4千人
○総来場者数	130万6千人	(前期比 10.0%増)	※前期 118万7千人

- ・貸館事業では、大規模イベントの利用日数の増加、受託業務売上の増加、利用料金改定などにより、売上高は14億20百万円（前期比14.3%増）となりました。
- ・商業事業では、コンサート利用日数の増加に伴う物販売上などにより、売上高は3億15百万円（前期比79.4%増）となりました。
- ・観光事業では、DOME Snow Zoneのインバウンド向けコンテンツ化などにより、売上高は5百万円（前期比37.8%増）となりました。
- ・その他事業では、ネーミングライツ売上の通年計上や、利用料金改定などによって、広告・駐車場事業が増収となり、これらを合算いたしましたその他営業収益は4億68百万円（前期比28.2%増）となりました。
- ・当初の計画を大きく上回る見込みであったことから、札幌市に40百万円寄付を行いました。また、貸出用備品の更新や館内飲食売店整備など利用者サービス向上を目的とした総額17百万円の改良工事等を実施し、その成果物を札幌市に寄付いたしました。

以上のことなどから、売上高は22億8百万円、当期純利益は1億54百万円の大幅な増収増益となり、2年連続の黒字となりました。

2. 剰余金の処分について

期末配当金として、1株につき1,000円、総額20百万円の配当を実施いたします。

3. 役員一覧

代表取締役社長	阿部 晃士	
取締役副社長	加藤 修	札幌市 副市長
専務取締役	北川 憲司	(札幌市派遣)
取締役	落合 重之	当社 事業本部長 (管理担当)
同	西出 幸広	当社 事業本部長 (事業担当)
同	渡邊 克仁 (新任)	札幌商工会議所 副会頭
同	新沼 彰人	北海道電力(株) 取締役 常務執行役員
同	八木 渉	北海道瓦斯(株) 常務執行役員 総務人事部担当 総務人事部長
同	佐保田 昭宏	(株)北海道新聞社 執行役員 企画室長
同	牧野 成寿	サッポロビール(株) 上席執行役員北海道本社代表兼北海道本部長
同	木村 平	(株)電通北海道 代表取締役社長執行役員
常勤監査役	池田 浩之	札幌商工会議所 統括調査役
監査役	草薨 金矢	草薨金矢税理士事務所 所長
同	権平 宗中	(株)北洋銀行 執行理事 公金地域創生部長

4. 今後の取り組み

第29期(令和8年度)は指定管理者制度における第5次指定期間(5年間)の4年目となり、次期指定期間も見据えた重要な年となります。当該事業年度は、長期ビジョン『SV-31』および新経営プラン『DOME ReSTART PLAN~Dreams Move Again』の実現に向け、新たに策定した『中期事業計画2030&アクションプラン2026』のもとで、当該事業年度の基本方針として「既存事業の収益向上」「新たな収益モデルの確立」「ブランド価値の向上(地域シンボル化の推進)」「Valueの定着」の4つの方針を掲げ、事業活動を推進してまいります。

■今後の取り組みポイント

①既存事業の収益向上

<貸館事業>

- 高収益イベントや平日イベント等の新規イベントセールスの強化
- 既存イベントの主催者様と更なる連携を図り集客数や開催日数の増加による収益向上
- 札幌市内の他のMICE施設との連携を主導し、札幌市へのMICE誘致を推進

<飲食事業>

- 北海道の特徴や魅力のある飲食展開を行うことによる客単価と収益性の向上

②新たな収益モデルの確立

<DOME Snow Zone>

- プロモーションの強化によって、冬のインバウンド需要を確実に取り込み、訪日客が市内・道内に滞在、周遊する流れを創出

<ドローン事業>

- ドローンスクールの開校をはじめとした取り組みによる大和ハウス プレミストドームのドローン実装拠点への進化
- 北海道・札幌を日本のドローン先進地域へと押し上げる取り組みの推進

③ブランド価値の向上（地域シンボル化の推進）

- 国際的なeスポーツイベントの継続開催や、フェス型音楽ライブなど、新たな市民文化となりうるドーム開催イベントの定着
- 市内大学との連携授業によるイベントの無い日のドーム活用をテーマとした企画の実現
- 『ドーム居場所づくりプロジェクト』の活動を通じた居場所のない子どもたちの支援及び社会課題解決への取り組み
- 「大和ハウス プレミストドーム」という施設愛称のさらなる定着
- 敷地内における生物多様性への取り組みに対する周知や理解を促す発信の強化

④Valueの定着（OPEN、FLAT、CREATIVE、CHALLENGE、CUSTOMER CENTRIC、SIMPLEの6つの価値観）

- 人事考課制度の改正に着手し社員の成長を促進
- 新規事業に必要な知識や技能のリスキリング推奨
- 社員提案型のプロジェクト立ち上げによるアントレプレナーシップの醸成
- 生成AI等のデジタル基盤を活用した業務効率化への取り組み

Dreams Move Again

～ “自律経営” を目指すための「第二の創生戦略」～

➤ PURPOSE（パーパス／存在意義）

ドームから北海道・札幌を元気にします

➤ MISSION（ミッション／使命）

世界から挑戦・興奮・勇気を誘致します

➤ VISION（ビジョン／未来の姿）

2031年までに世界と北海道をつなぐ交流創造拠点を目指します

➤ Value（バリュー／価値観）

①OPEN ②FLAT ③CREATIVE ④CHALLENGE

⑤CUSTOMER CENTRIC ⑥SIMPLE



5. 業績、利用日数・稼働率の推移

単位：	(百万円) ※百万円未満切り捨て				(日)	(日)	(%)	(人)
年度	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	イベント日数	総利用日数	稼働率	総来場者数
2001	2,245	123	357	256	80	177	58.2	1,994,661
2002	2,091	91	119	64	79	226	61.9	1,858,493
2003	2,226	195	239	136	103	221	60.4	1,808,781
2004	2,743	356	420	242	123	241	66.0	2,338,675
2005	2,883	335	402	233	123	267	73.2	2,116,155
2006	3,536	297	370	208	129	265	72.6	2,685,959
2007	3,676	452	541	317	141	266	72.7	2,973,571
2008	3,127	150	227	116	134	265	72.6	2,997,033
2009	3,694	383	458	166	133	261	71.5	3,079,218
2010	2,847	51	103	40	118	244	66.8	2,453,014
2011	3,617	362	413	232	138	279	76.2	3,069,134
2012	3,645	379	432	243	138	268	73.4	2,874,435
2013	3,315	122	160	74	134	271	74.2	2,783,299
2014	3,677	▲492	▲454	▲427	132	262	71.8	2,782,746
2015	3,894	413	447	394	139	285	77.9	3,033,093
2016	4,143	240	287	165	134	262	71.8	3,126,047
2017	3,889	184	229	163	133	271	74.2	3,046,544
2018	3,616	▲484	▲426	▲357	125	234	64.1	2,796,612
2019	3,972	229	410	188	132	256	69.9	2,921,083
2020	1,868	▲501	▲77	▲81	99	164	44.9	543,519
2021	3,185	277	390	224	115	253	69.3	807,611
2022	2,976	70	193	120	124	220	60.3	1,767,637
2023	1,271	▲672	▲560	▲651	98	229	62.6	1,094,511
2024	1,787	▲56	43	42	129	257	70.4	1,187,288
2025	2,208	211	285	154	119	259	71.0	1,306,123

※2014年度：大型ビジョンの更新により、開業以来初の赤字となりました。

※2018年度：野球用人工芝等の更新により、開業以来2度目の赤字となりました。

※2020年度：コロナ禍で利用日数・稼働率・来場者数が大幅に減少し、売上高および営業利益は開業以来最低（当時）となりました。

※2023年度：北海道日本ハムファイターズ移転に伴う利用日数および来場者数の減少のほか、一部の固定資産について減損処理を行ったため、売上高および営業利益は開業以来最低となりました。